

「面白い」植物を踏みつけて歩く

北斗市 長谷 昭

本会事務局の五十嵐博氏が、本誌 27 号のコラム欄に「道南の植物は面白い」と書いていた（五十嵐 2010）。確かに、道南には道内の他地域では見られないか稀である植物がかなり多く生育しており、また多くの植物図鑑類で道内での分布の記載がない植物が、ごく普通に観察されることもある。道南に居住しているが出身が道央である筆者も、「未知との遭遇」がしばしばあり、知識不足・経験不足を痛感させられる。

2021 年 8 月末、本会会員の酒井信氏のご案内で、函館市の郊外をこの「面白い」植物の観察のために回った。その 1 つのヒキオコシ *Isodon japonicus* (Burm. f.) H. Hara (シソ科) の群生地に立ち寄ったところ、狭い未舗装道路の中央にチカラシバ *Pennisetum alopecuroides* (L.) Spreng. (イネ科) が点々と分布しているのを見つけた。また、酒井氏から、同じ場所にヤハズソウ *Kummerowia striata* (Thunb.) Schindl. (マメ科) が生育していることを教えて頂いた。

さらに、黒っぽい円錐花序をつけ、葉舌が毛状である見たことがないイネ科植物が生育していることに気が付いた。その場では全く見当が付かなかったので、写真に収めて帰宅後に同定したところ、

カゼクサ *Eragrostis ferruginea* (Thunb.) P. Beauv. (イネ科) であった（図 1）。なんとその地点で、ヒキオコシをはじめとして 4 種もの、道南を中心に分布するとされる道内では比較的稀な植物を観察できたのである。しかも、ヒキオコシ以外の 3 種は車や人が通る道路の真ん中の、踏みつけられても不思議ではない場所に生育していた。



図 1 函館市郊外で観察したカゼクサ
右上：小穂 右下：葉舌の拡大図



図 2 函館市見晴公園のヒメチドメ群落の一部
左下：植物の拡大図

同じように、道南では踏みつけられて当たり前のところにヒメチドメ *Hydrocotyle yabei* Makino (ウコギ科) が生育しているのを稀に見かける。特に、函館市を代表する都市公園である見晴公園には、芝生のようにヒメチドメが随所に群生し、踏みつけなければ通れない場所も多い (図2)。

これも酒井氏に教えて頂いたのであるが、我が家の近くの大野川の河川敷にウシノシッペイ *Hemarthria sibirica* (Gand.) Ohwi (イネ科、図3) の群落があり、観察に行った際に知らないうちに踏みつけていた。

さて、図 (写真) で紹介したカゼクサ、ヒメチドメ、ウシノシッペイは、新日本植物誌 (大井・北川 1983) はじめ多くの植物誌や図鑑類で、分布が本州・四国・九州とされるか、道内分布が道南の一部に限定されていたものである。その後の調査などで道内での分布が見直され、改訂により分布域に北海道を加えた図鑑類もあるが、分布の中心は道南であり、「面白い」植物の例に漏れないものと言えよう。また、いずれも踏圧に強い植物のようであることが幸いであった。

最後に、たくさんの「面白い」植物との「遭



図3 大野川河川敷のウシノシッペイ

遇」を仲介して頂いている、酒井信氏に感謝致します。

引用文献

- 五十嵐博 . 2010. 道南の植物は面白い . 北方山草 27: 44.
 大井次三郎 (著)・北川政夫 (改) . 1983. 新日本植物誌顕花編改訂版 . 至文堂 , 東京 .